

令和 7 年度 災害時ボランティア研修

開催日時： 令和 7 年 5 月 24 日（土） 13:00～16:00

会 場： あいち国際プラザ アイリスルーム

講 師： 杉田 理恵 氏（自治体国際化協会 地域国際化推進アドバイザー）

参 加 者： 愛知県国際交流協会 登録語学ボランティア・県内市町村 所属ボランティア
申込者 23 名/参加者 18 名

主 催：（公財）愛知県国際交流協会 交流共生課 交流共生担当

令和 7 年度災害時ボランティア研修「災害時の多言語支援～私たちの役割～」を開催しました。



講師の杉田理恵氏

災害発生時には、外国人住民や大使館等から多言語による相談が寄せられることが想定されます。そのような状況において、語学ボランティアの協力は不可欠です。今回の研修は、災害時に必要となる支援の心構えやスキルを身につけていただくことを目的として開催しました。

研修では、支援における基本姿勢、通訳・翻訳の基本、やさしい日本語の活用法などについて、実践を交えながら学びました。「安心を届ける」存在として求められる語学ボランティアの役割について、理解を深める機会となりました。

【主な講座内容】

前半は、AIA 職員より「愛知県の現状と災害時対応」について説明した後、講師の杉田理恵氏が熊本地震・東日本大震災での多言語支援経験をもとに、避難所での対応や情報伝達の工夫、外国人住民の課題について具体的に紹介しました。特に、通訳スキルに加え、「安心を届ける存在」であることの大切さを学びました。

後半は、災害時の電話通訳ロールプレイや、避難所ルールの「やさしい日本語化」と翻訳のグループワークを実施。ピクトグラムの活用や簡潔な表現の重要性について、参加者同士で意見を交わしながら理解を深めました。



グループワークの様子



翻訳ワークショップでは、避難所でのマナーやルールを、やさしい日本語や多言語に翻訳しました

【参加者の感想など】

今回の研修では、災害時の多言語支援に必要な知識やスキルに加え、「寄り添う姿勢」や「支援者としての心構え」の重要性を再認識しました。

また参加者からは、「伝わる工夫や視覚的配慮の大切さを学んだ」「やさしい日本語の使い方が参考になった」といった声が寄せられました。

講師の体験談や、参加者同士の気づきを共有しながら、「自分たちの役割」を考える時間となり、今後の災害対応に向けた意識を高める、たいへん有意義な研修となりました。